

## 新年快樂

水面の反射光が眩しく  
思わず復活の呪文を唱えた  
香典すら渡せなかった  
彼女が捨てられた港で

時が止まった彼女を  
千代に八千代に刻むべく  
革の手袋を捨て  
凍えた指で生命線をなぞる

三三五五に消えた仲間からはぐれ  
あどけなさの残る顔で大人に囲まれ  
何一つ訴えることもできず  
救いを求めることもできず

彼女が欠けた世界で  
一人静かに佇む  
不滅の精神を悼む  
可憐な笑顔を憶う

線香を手向ける  
花火の上がない港で  
爆竹を飾る人々  
餃子を包む指に痛みを加え  
油の海に涙を添え投げ込む

桐島こより